

学校法人滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校
2021年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

作成者（書記）：稲吉祐子

日時 2022年6月6日（火）10：00～12：00

会場 東京ベルエポック美容専門学校
東京都江戸川区西葛西6-28-16 TEL03-5667-9090

出席者 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属	役職
卒業生代表	森光 数美	株式会社トニーアンドガイ ジャパン	スタイリスト
保護者代表	櫻井 あゆみ (欠席)	HM科2年在学生の保護者	
高等学校関係者	浅川 潤一	千葉商科大学附属高等学校	学校長
地域関係者	空田 真之	江戸川区葛西・西葛西メトロ センター会	代表取締役
業界関係者	高良 成児	株式会社クルー	顧問
業界関係者	野田 かをり	パルファン・クリスチャン・ ディオール・ジャポン(株)	営業本部 リテール ヒュー マン リソース マネージャー

【事務局：学園・学校関係者】

古島 暉大 滋慶学園 常務理事
川戸 功一 東京ベル美容専門学校 学校長
岩村 勇 東京ベル美容専門学校 本部長
中村 聖之 東京ベル美容専門学校 事務局長
武田 郁乃 東京ベル美容専門学校 美容師学部長
小泉 哲郎 東京ベル美容専門学校 ヘアメイク・メイクアップ学部長
中岫 義彦 東京ベル美容専門学校 学生支援センター長
稲吉 祐子 東京ベル美容専門学校 広報センター長

議題 <会議の概要> (進行：武田 郁乃)

- 1、開会挨拶
- 2、評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介
- 3、本委員会の趣旨説明
- 4、2021年度の自己評価項目と評価内容の説明
- 5、2021年度学事報告
- 6、2021年度の自己評価内容報告 抜粋
- 7、質疑応答・意見交換

8、連絡事項

9、閉会挨拶

議事

1、開会挨拶（学校長 川戸功一）

5月24日に内部で自己点検を行った資料を基に多方面から見た東京ベルエポック美容専門学校について、皆様から貴重なご意見を頂戴できると幸いです。

本日は宜しくお願い致します。

2、評価委員会のご紹介並びに学校側出席者の紹介

3、本委員会の趣旨説明（事務局長 中村 聖之）

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、
組織的・継続的な改善を図ること。
- (2) 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに
保護者・地域住民等から理解と参画を得て、
その連携協力による学校づくりを進めること。
- (3) 設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の
改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

4、2021年度の自己評価項目と評価内容の説明（事務局長 中村）

評価の実施方法

- (1) 各学校の教職員が行う評価 【自己評価】
- (2) 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が
自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3) 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価 【第三評価】

●評価10項目

教育理念・目的・育成人材像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援
教育環境、学生の募集と受け入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献

●評価をいただいた結果、職業実践専門課程の承認

文部科学省告示第133号平成25年8月30日

目的：職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻
分野における実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものを
文部科学大臣が認定

5、学事報告（事務局長 中村）

○開講の目的

東京ベルエポック美容専門学校は美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、
創造力、コミュニケーション力を持った「美のコーディネーター」を育成します。

本校は最新の美容・ファッションを一人ひとりに提供する学校として業界と提携した最新の教育プログラムを展開するとともにセルフプロデュース力を備えた美容のプロを養成する教育機関として専門教育と現場実習、産学連携プログラムを強化している。

1) 教育実績

学校運営の2021年度 教育目標・実績は下記①～③である。

【2021年度実績】

- | | | |
|-----------|-------|---------------|
| ①中途退学者 | 実績/昨年 | 5.4% (4.6%) |
| ②就職希望者内定率 | 実績/昨年 | 100% (100%) |
| ③進級率 | 実績/昨年 | 91.3% (90.8%) |

●美容師国家試験合格率

【美容師科】

受験者 97名 合格者 93名 95.87% (昨年 82.47%)

実技不合格者 4名、筆記不合格者なし

【美容師実践科】

受験者 17名 合格者 16名 94.4% (昨年度 71.43%)

実技不合格 1名、筆記不合格なし

2) 広報実績

2022年度 4月 入学者 260名

2021年度 4月 入学生 230名

2020年度 4月 入学生 238名

『最新の美容・ファッションを一人ひとりに』をモットーにその実践的な教育コンテンツのTOPサロンゼミやアシスタントプログラムなどを魅せることで特に最新の美容を学べる学校という認識を持ってもらうことを戦略として広報活動を行った。

出願数 (今年 270名、昨年 237名)

今年度は設立以来最多の入学学生数となった。中でも遠方から通う希望者の多い本校にとって安心感を提供できている 証明でもあると思われる。

3) 収益実績

学生数も安定し、中期的な財政基盤を固める計画を進めてきた。

本校でもグループとして5カ年計画で目指す収益額・収益率で着地をすることができた。

今年度はまだ新型コロナウイルスによる影響も大きく影響したが、広報・教育・就職に関してそれぞれ新型コロナ対策が講じ、年度の運営を圧迫することなく計画的に運営することが出来た。今後も学生への教育の質保証・安全を第一に考えた運営を心がけていく。

6、2021年度の自己評価内容報告（事務局長 中村他）

①教育理念・目的・育人人材像

建学の理念(実学教育、人間教育、国際教育)・4つの信頼(学生・保護者、産業界、高校、地域)を軸に職業人教育を行っている。

教育課程編成委員会で頂いた業界からの意見やアドバイスをカリキュラムに反映しより業界に即した人材の育成に力を入れている。

②学校運営

単年ごとに作成している事業計画をもとに運営計画を定めており、中身に関しては五カ年を見据えて収益、中期ビジョンを定めて運営をしている。

職員一人ひとりの目標(チーム目標、個人目標)を設定しており、各部署の会議や学校全体の会議の中で各担当を通じて成長の機会を設け育成できるよう心掛けている。

また在校生や卒業生を管理する情報システムを活用し、学校運営に生かしている。

③教育活動

業界動向「最新の美容・ファッションを一人ひとりに」をもとに、今、そして未来を見据えて調査をして養成目的、教育目標を見直し、カリキュラムの変更を行っている。

高校から専門学校にあがる過程で、様々な壁があるため滋慶学園としてキャリアロードマップを活用して、入学前教育から卒業後支援まで一人ひとりのフォローを行っている。

授業に関しては、各教科において授業アンケートを実施し、集計したデータをもとに講師の先生へフィードバックを行い、授業の質の向上を行っている。

それぞれの科目ごとにシラバスを作成し、事前に計画を立てたうえで、授業を行っている教員に向けた研修を行っている。

④学修成果

月別で内定シミュレーション(目標)をたて、時期に応じた学生指導を心掛け、希望就職者においては卒業式までに100%内定を頂いている。

また学生はWEBサイトにより学校にきた求人を見る事が出来る。

⑤学生支援

退学率低減のため、退学した学生の傾向を調査し、総括をする取り組みをしている。

退学者傾向の情報をもとに学園内のカウンセラーからも意見を頂いている。

今後に関しては、ICT教育などを活用したサポートをおこなうことで退学率低減を目指す。

課外活動では、サークル活動という位置づけでダンスサークルやフットサルサークル活動を行っているまた地方の在校生が多いので、一人暮らしや学生寮のサポートを行っている。

⑥教育環境

実践教育を行うため、サロン実習室、ブライダル実習室、ファッション実習室、フォトスタジオを整え、職業感をもって授業を行うことが出来ている。

また産学連携実習を行う事で、業界と直結した教育を行うことが出来ている。

⑦学生募集と受け入れ

高校毎に在校生の様子や卒業生の動向などの情報を訪問した際に報告を行うことで安心して送り出して頂けるよう心掛けている。コロナ禍でのオンラインにおいての広報活動も実施している。

⑧財務

事業計画をもとに5カ年の収支を考えた上で、さらに良い環境を整えられるようにしている。財務報告書、監査報告書に関しては学校ホームページにて情報公開を行って健全な運営を行っている。

⑨法令等の遵守

専修学校設置基準に基づいて毎年チェックを行っている。

個人情報保護に関しても台帳を基に第三者機関にも入って頂き管理している。

職員講師学生共にITリテラシーの講座を行った上でテストを行い、全問正解するまで行っている。

⑩社会貢献

在校生が学内にて、地域の方々に美容の提供することやボランティア活動などをしていたが、昨年度はコロナの影響もあり難しかったが、今年度は積極的に行っていきたい。

7、質疑応答・意見交換

野田) 百貨店の動向としては、売り上げに関しては戻ってきている。海外の情勢により新商品が届かないなどの輸入が滞っている。インバウンドの影響が少なかったため、回復が早かった。また、コロナ禍でも攻め続けたことが今の結果につながった。コロナの影響で百貨店の販売員としての職種のイメージが悪くなってしまったのが、今後の懸念事項である。従業員から今の情勢に合わせてテレワークでの働き方等の希望が出てきたりするが、百貨店の働き方改革と検討できるようプロジェクトメンバーを中心に改革を行っていきたい。

高良委員) 美容学校の入学の希望の層が多いなかで、入学者を増やすことができているのはなぜか？

稲吉) 元々地方出身者が多い学校であるが、今年度は特に関東圏の出身者への働きがけをおこなうことで入学を希望する学生が増えた傾向がある。

浅川委員) 3つ質問があります。退学者の傾向について、サークル活動でどのようなことを行っている、ビューティトレーニングの具体的な内容について教えて頂きたい

中村) 退学者の傾向については、導入教育期間におけるチームビルディングの構築やカウンセラーにもアドバイスをもらいながら導いてはきたがメンタルストレスに弱い学生が多くなっている。

サークル活動については、美容の学生はダンスをやっていた学生が多く、西葛西校にある姉妹校と一緒にダンスサークルやフットサルサークルを実施している。

小泉) ビューティトレーニングランドに関しては、過去にトータルビューティ科という学科があった際に、専攻ごとに(メイク・ネイル・エステ)学内にショップをオープンして地

域の方を招いて、在校生による施術をさせていただいている。

今年度に関しては、アダストリア様にアドバイスを頂き設置したファッション実習室を生かして、近年問題になっている洋服の廃棄を取り上げた学生フリーマーケットの運営を検討している。

空田委員) 地域コミュニティに対して、学校側として何かご要望があるか

小泉) ジェフユナイテッドとのコラボで行ったボディペイントが印象に残っているのでそのようなイベントにて在校生が関わらせて頂けると嬉しい。地域の方々とのコミュニケーションが生まれて、ダイレクトに感謝されるような機会は、在校生にとっても非常にモチベーションに繋がる。美容の力を使って、地域コミュニケーションを是非一緒にやらせていただきたい。

森光委員) 専門学校時代と就職したあとのギャップを感じて1年目で辞めてしまう人がまだ多いなど実感しているが、そういったことの対策は行っているのか

武田) 就職講座という担任授業をやっていて、授業内にて人間教育を行っている。またセルフマネジメントについても定期的に伝えており、昨年は希望者において現場実習として実際に現場で実習をしリアルを知ることでそのギャップを埋めることを実施してきた。

森光委員) スタイリストデビューをするまでの過程で転職する人が増えているが、そういった際にサポートしてもらえるのか

中嶋) 離職者に対しては、卒後も生涯就職支援を行っている。また滋慶学園グループ全体として卒業生のキャリアアップ支援としてのJ-キャリアスクールというリカレント教育で色々なキャリア講座を実施していくことが決定している。

稲吉) 現在のコロナ禍の状況における進路選びの傾向はどのようになっていますか

浅川委員) 本校は大学進学者が多い。一方で、キャリアイメージなどを描いたうえで目的を持って、専門学校を選択する高校生が増えていると実感している。学校としてはそれぞれの進路希望に合ったサポートをしている。

高良委員) 森光さんの方からも1年目の離職率が高いという話があったが、業界としては美容の楽しさをもっと伝えないといけないと感じている。もっと一緒に美容業界を盛り上げていけると幸いです。

森光委員) いまは個人のSNSの力で集客できるような時代になってきているが、学校としてはどのような活動を行っているか

小泉) 本校では発信という意味で2つの方法をおこなっている。まずはフォトスタジオという施設が昨年度より完成し、専用のカメラや編集ソフトを使用した作品撮りをおこなっている。また自分のスマホやipadにて撮影したものを編集や加工するアプリを使用してSNSにアップするなどを行っている。就職活動においてはサロン様や個人の方のSNSへのアプローチや履歴書へのSNSアカウント記入などそういった動きも盛んになり、自分の価値を高めるためのセルフプロデュースという授業でも展開している。

中村) 今の時代、学生のうちからやっておいた方がいいことはあるか

森光委員) 特に専門学校時代から一万人フォロワーがいるというのは、卒業後に非常に生かせると思う。在学中からそういった力をつけておくことは大切だと思う。

8、閉会挨拶 (事務局長 中村)

本日はご多忙の中誠に有難うございました。

今後のスケジュールについてですが、「評価結果及び改善方策シート」をご返送して頂き、今年度の事業改善ならびに次年度の事業計画の礎とさせていただきます。